

やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」(青森)発行

誌 名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	20 / 2006 / 1-2
タイトル	【緒言】ふるさと生態系と生き物たちの外圧
著 者 名	やぶなべ会会長 室谷洋司

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

緒言 ふるさと生態系と生き物たちの外圧 やぶなべ会会長 室谷洋司

この3月、やぶなべ会が面目躍如の慶事があった。財団法人水環境学会の権威ある平成17年度「水環境文化賞」に輝いたことで、平成8年創設の同賞受賞は東北地方で2回目の栄誉である。思えば40年以上も前から、蝦名前会長らの陣頭指揮のもとに県内各地の水生生物の調査やら、小中高校生や一般への環境保全の啓蒙活動、ホテルの里づくりで地域おこしへの指導などと、それは長いみちのりであった。この汗のにじむような活動が、いま高く評価されたことは誠に喜ばしい。

今でこそ全国各地で、自然の大切さとか保全活動が社会運動として繰り広げられているが、いち早くこのことを予測しながら行動をおこし、社会貢献につないだ会員諸氏の尽力に心からの敬意を表したい。これをバネに、引き続き「ふるさとの自然を見つめる」をモットーに、さまざまな活動を展開していきたいものである。

話題は変わるが、自然環境破壊とは同根にある、深刻な報告書が青森県から発行された。「青森県外来種対策学術調査報告書—青森県外来種リスト—」(2006年3月)がそれで、生き物の世界でも、いかにグローバル化が進んでいるのかを示すもので、その片鱗を紹介したいと思う。

外来種リストの作成に至ったのは、近年の急速な環境変化や人間活動の拡大で、国外・国内の他地域から人為によって導入、定着した外来種が、地域固有の生態系に大きな問題を生じさせているためで、環境省主管の国の方針に沿ったものである。これによって、①侵入の予防、②早期発見、③定着した種の駆除(影響緩和)を進めたい、その基礎資料という位置づけである。報告書は94頁で公共機関での閲覧が可能で、やがてホームページでも読むことができるという。速報としてそのエッセンスを筆者なりにまとめたてみた。

「やぶなべ会報」(18号)に「青森県に分布する生物種数とレッドデータ選定種(2000年)の比較一覧」を掲載したが、表1は同じ要領で外来種との比較検討ができるように整理した。この報告書では外来種カテゴリーを6つに区分した。

Aランク(侵略的定着外来種): 2つに分け Afは原産地が国外、Adは同じく国内。青森県に定着している外来種で生物多様性への影響が報告され、あるいは懸念されている。

Bランク(定着外来種): 同じく Bf 国外、Bd 国内。青森県に定着している A 以外の種。

Cランク(要注意導入外来種): 同じく Cf 国外、Cd 国内。青森県に導入されているが定着していない。しかし生物多様性への影響が報告され、あるいは懸念されている。

Dランク(導入外来種): 同じく Df 国外、Dd 国内。青森県に導入されているが定着していない、上記 C 以外の種。

Eランク(警戒外来種): 同じく Ef 国外、Ed 国内。他の地域で生物多様性への影響が確認されていて、青森県に導入・定着した場合、同様の影響を生じるおそれが高い。

Lp ランク(地域限定外来種): 国内他地域のみ。在来種だが人為的導入で地域固有の生態系への影響が懸念されている。

分類項目	分布種	外来種(国外)選定種						分布種備考
		Af	Bf	Cf	Df	Ef	計	
維管束植物合計	2,485	72	242	1	3	0	318	細井(1994)参考
シダ植物	194	0	0	0	0	0	0	
種子植物	2,291	72	242	1	3	0	318	同上
動物合計	8,408+ α	17	54	4	4	5	84	
脊椎動物合計	408+ α	6	5	3	1	3	18	
哺乳類	約 60	0	0	2	0	1	3	
鳥類	316	0	2	0	0	0	2	青森県(1978)参考
爬虫類・両生類	16	1	1	0	0	0	2	
汽水・淡水魚類	不明	5	2	1	1	2	11	
無脊椎動物合計	8,000+ α	11	49	1	3	2	66	
昆虫類	約 8,000	10	46	1	2	0	59	市田(2003)参考
昆虫類以外	不明	1	3	0	1	2	7	
総計	10893+ α	89	297	5	7	5	403	

[表1] 青森県に分布する生物種数と外来種選定種(国外、2006年)比較一覧

注記:この表は筆者が独自にまとめたもので、国内の他地域からの外来種(43種)は含まれていない。表の分類項目から削除したが、蘚苔類に1種(Bf)があり総計を403種とした。分布種備考は、会報18号掲載の参考文献を示す。

各ランクを念頭に表を読むと、たとえば種子植物では県内分布種2291種のうち、318種もの国外起源の植物が青森県で繁栄している。そのうち72種が生態系に大きな影響を与えている。生物全体では、国外起源は403種であった。小文字のdを付した国内起源の導入種は、別に合計43種あったが表から割愛した。

もう少し具体的に代表的な種名をあげてみる。

維管束植物では、Afはハルザキヤマガラシ、イタチハギ、ニセアカシア、アレチウリ、アメリカセンダングサ、ハルジオン、オオハンゴンソウ、セイタカアワダチソウ、ヒメジョオン、アカミタンポポ、セイヨウタンポポ、キショウブ、カモガヤ(オーチャードグラス)、オニウシノケグサ(トールフェスク)などが含まれ、これらは日本生態学会が定めた「日本ワースト100」選定種でもあり勢力をふるっている。哺乳類では、Cfでアライグマ、タイワンザルなどをリストアップ。

汽水・淡水魚類のAfは、ブルーギル、オオクチバス、カムルチーで、この3種は「日本ワースト100」で、さらに国際自然保護連合が定めた「世界ワースト100」選定種で生態系かく乱の重要種。昆虫類のAfでは、クリタマバチ、セイヨウオオマルハナバチ、オオモンシロチョウ、イネミズゾウムシ、ツマグロカミキリモドキ、アメリカシロヒトリなどで「日本ワースト100」も多い。昆虫類以外ではアメリカザリガニ(Af)、ウチダザリガニ(Ef)など、お馴染みの問題種が入っている。

このように基礎資料としての報告書がまとまった。つぎのステップは、その予防と駆除、影響緩和といった難題をどうするか。県民あげての協力理解が不可欠で、われわれも大きな関心をもちたいものである。まさに生き物たちの外圧は身近な自然環境を席卷し、在来種受難の時代になってしまった。

(2006年5月5日)